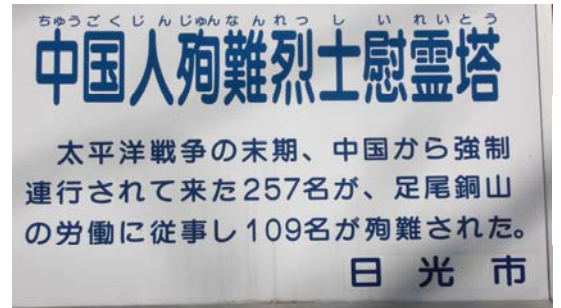
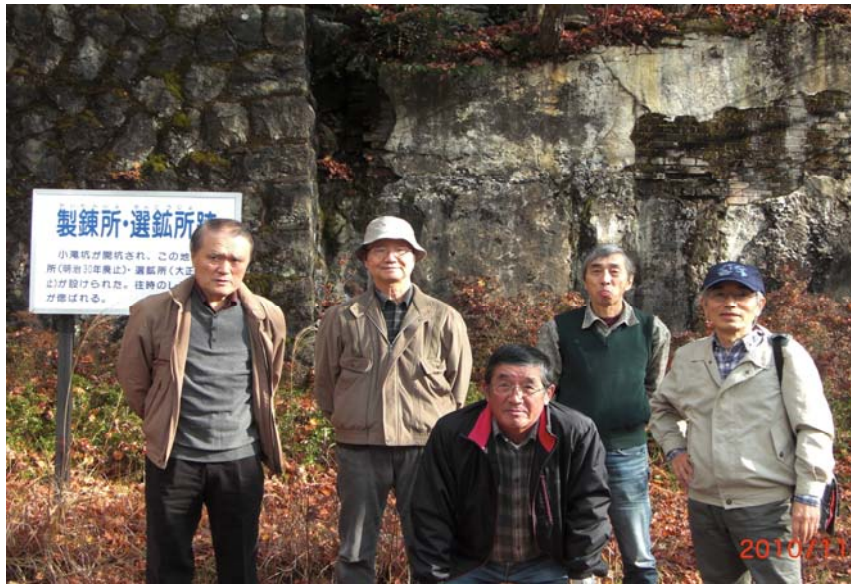


2010年11月27日(土)7:30～日光市足尾町「第12回・男のゆうゆう塾」

第14回 足尾銅山見学 (塾会員 戸田さん)

出席者(6名) 南、戸田、青山、齊藤、吉田、御菩薩木、

古河市兵衛が築いた人口3万人の銅山の街に、田中正造がただ一人、公害反対で廃止を叫んだ足尾のこん跡です。明治の近代産業の先がけとなった足尾銅山は、最盛期には日本産銅の40%を産出していました。



2010年11月27日(土)7:30～日光市足尾町「第12回・男のゆうゆう塾」

第14回 足尾銅山見学 (塾会員 戸田さん)

古河財閥は、小滝の山奥に町を作りましたが、松本地区の3つの村を亜硫酸ガスの公害により廃村にしてみました。松本溪谷の入口付近、現在も数えきれない堰堤と砂防ダムにより、緑の回復を図っています。



旧足尾鉱業所事務所附属倉庫

明治40年(1907)暴動により本山鉱業所事務所は焼失し、明治43年(1910)に掛水倶楽部と隣接するこの地に新事務所が建設された。洋風の赤レンガとの木造の2階建て、この赤レンガの建物は附属の書庫として建設され、現在もその役割を果たしている。

鉱業所事務所は大正10年(1921)足利市庁舎として売却され、その後昭和40年代後半に老朽化により取り壊された。その後敷地跡は古河虎之助社長を主賓とした大園遊会に利用されたが、現在はテニスコートとして利用されている。

